

Ⅱ 国語科の問題と 調査結果・分析等

分析ページの構成と見方について

1 「設問のねらいと評価」について

「大問・領域」には「読むこと」（文学的な文章と説明的な文章）、「書くこと」、「言語事項」を示した。「設問のねらい」には、小問ごとの設問のねらいを、「評価」の項目には、「関心・意欲・態度」「話すこと・聞くこと」を含めた観点に該当するものを○印で示した。

2 「調査結果の分析と指導のポイント」について

調査結果の分析については、「全体（教科全般）」「領域別（領域や内容別）」「継続して見られる課題（過去4年間の継続課題）」を示し、指導のポイントについては、今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点を示した。

3 「領域別調査結果の考察と指導のポイント」について

大問ごとに設問・正答・結果・誤答例等について左ページに、その考察（概要・指導のポイント）について右ページに記した。

（※誤答例は、抽出生徒の主な誤答について頻度の高いもの）

1 設問のねらいと評価

大問・領域	小問	設問のねらい	観点別評価				
			関 意 態	話 ・ 聞	書 く	読 む	言 語
① 読むこと (文学的文章)	問1	登場人物の行動に関わる表現を指摘することができる。				○	○
	問2	表現に即して登場人物の心情を読み取ることができる。				○	
	問3	表現に即して登場人物の状況を読み取り、適切に書くことができる。	○		○	○	
	問4	文章の展開に即して登場人物の心情を読み取ることができる。				○	
② 読むこと (説明的文章)	問1	表現に即して具体的な内容を読み取ることができる。				○	
	問2	内容を端的に表す語句を指摘することができる。 文章の構成を正しくとらえることができる。				○	○
	問3	文章の展開に即して内容をとらえることができる。				○	○
	問4	文章の展開に即して内容を正確に読み取ることができる。				○	
③ 言語事項 (漢字の読み書き)	1 2 3 4 5 6 7	小学校6年生までに学習した漢字を正しく書いたり、読んだりすることができる。					○
	8	中学校1年生で学習した熟字訓を正しく読むことができる。					○
④ 言語事項 (漢字の読み書き以外)	問1	漢字の部首名を正しく理解している。					○
	問2	基本的な漢字の画数について正しく理解している。					○
	問3	慣用句の意味を正しく理解している。					○
	問4	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことができる。					○
	問5	文中から「主語・述語の関係」を正しくとらえることができる。					○
	問6	行書の基本的な書き方を正しく理解している。					○
⑤書くこと (条件作文)		相手や目的に応じて、適切に話題を選び、作文を書くことができる。	○		○		○

2 調査結果の分析と指導のポイント

(1) 調査結果の分析

全体	◇漢字や語句など学習したことがよく身に付いている。 ◆文章全体を通して内容を正確に読み取る力が不足している。
領域別	＜読むこと＞ ◆場面の展開や登場人物の心情をていねいに読み取ることに課題が見られる。 ◆接続語などに注意して文章の構成をとらえ、論理的に読み取る力が不足している。 ＜書くこと＞ ◇身近なテーマに意欲的に取り組める生徒が多い。 ◇材料を集めて、自分の考えをまとめて書く力が備わっている。 ◆相手や目的を意識して適切に表現する力が不足している。 ＜言語事項＞ ◆配当漢字の習得についてはおおむね定着しているが、漢字本来の意味まで理解されていない傾向が見られる。 ◇中1で学習した言語に関する事項はおおむね理解できている。 ◆話し言葉と書き言葉の違いについて理解が不十分である。
継続して見られる課題	◆文章の展開に即して内容を正確にとらえること ◆文章の中から必要な内容を読みとり、条件に合わせて適切に表現すること ◆原稿用紙の正しい使い方が身に付いていないこと ◆文法の知識や理解が不十分なこと

(2) 指導のポイント

＜読むこと＞ ○文章を積極的に読もうとする意欲を高めるために、「どんなことに注目して読むか」など目的意識を明確にし、読み取ったことを活用する学習に取り組ませる。 ○主体的に情報を収集し、取捨選択する力を身に付けさせるために、様々な種類の文章を読ませ、構成や内容を比較したり、内容を整理しながら考えを深めたりする学習に取り組ませる。 ＜書くこと＞ ○根拠を具体的に挙げて自分の考えを述べる力を身に付けさせるために、「知らせる」「説明する」など書く目的を明らかにした学習に取り組ませる。 ○適切な内容や整った表現で文章を書くことができるようにするために、評価の観点を明らかにした自己評価や相互評価の学習を習慣化し、優れた表現や書き方の工夫などを習得する学習に取り組ませる。 ＜言語事項＞ ○漢字や語句に対する関心を高め、文脈や用法に合った適切な使い方を身に付けさせるために、辞書を活用して漢字や語句がもつ意味を正確にとらえ、意味の違いや派生などについて考える学習に取り組ませる。 ○文法の正しい知識や用法を定着させるために、文法の学習の時間に限らず、3領域における学習の中でも、文法事項について取り上げ、既習内容を復習したり活用したりする学習に取り組ませる。
--

3 領域別調査結果の考察と指導のポイント

全国学力・学習状況調査	83.6	70.5
さいたま市学習状況調査	52	63

(1)「読むこと」

大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無答率
1 読むこと 文学的文章	問1	「冒険」とありますがそれは、「ぼく」たちにとって、何をすることですか。本文中の言葉を使って答えなさい。	(遊泳禁止を示す赤い) ブイの向こうで泳ぐこと(向こうへ行くこと等)	ボートから海に飛び込んだり、もぐったりしている		71	8
	問2	「だれか見つけてくれればいいのに」とありますが、「ぼく」はどんな気持ちでこう言ったのですか。□に当てはまる言葉を文中から書きぬきなさい。 〈だれか見つけてくれれば、□から。〉	引き返せる	注意をしてくれる		33	8
	問3	「不安」とありますが、この場面で「ぼく」が不安になった理由が二つあります。それぞれ十五字前後で答えなさい。	・潮の流れが、思っていたより速いこと ・足も届かないぐらい深くなっていること	・潮の流れに遡らう格好になるから ・海の深さが、足も届かないくらい		56 68	3 4
	問4	「ごめんなさい、パパ、ママ、ごめんなさい」とありますが、この時の「ぼく」の気持ちとしてもっともふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。	イ	エ		90	1
ア パパやママとボートに乗る約束をしていたのに子どもたちだけで行って、さらにボートまでなくしてしまったのでおこられると思いおびえている気持ち。 イ パパやママがマコトとばかり遊んでいるので寂しくなり、いけないと分かっているがらも冒険に出て、とても心配をかけてしまって後悔している気持ち。 ウ パパやママはぼくよりマコトのことがだんだん好きになってしまって、このままでは本当にマコトにとられてしまうのではないかと心配している気持ち。 エ パパやママがマコトと砂の城をつくって遊んでいるところをじゃましてしまい、泳ぎの得意ではないソパに助けにきてもらって申し訳ない気持ち。							

(単位：%)

読むこと【文学的文章】

(1) 結果の概要

① 資料文について

小学校4年生の「ぼく」は、仲間4人と一緒に、両親に連れられて海に遊びに来た。海に着いてから、「ぼく」の両親はお父さんを亡くしたマコトという女の子とばかり付き合っている。自分よりも女の子のことを優先している両親の態度に寂しさと不満を感じながら、「ぼく」は仲間の提案で、遊泳禁止区域に行くことになった。水泳の得意な「ぼく」は、仲間のゴムボートを後ろから押しながら泳いだ。しかし、遊泳禁止区域を過ぎたところで泳ぎ疲れ、「ぼく」はおぼれそうになった。両親への後悔の念がわき上がった時、父親が泳いで助けに来てくれた。「ぼく」はその時の父の姿に感動した。

自分の気持ちを整理できないもどかしさから、とんでもない行動をしてしまう「ぼく」の心情に、生徒は共感できると思われる。全体的に平易な言葉で表現され、家族に対する思いや家族の温かさを感じることができる作品である。

② 設問ごとの結果

【問1】 「ぼく」たちにとってどんなことが「冒険」にあたるのかを読み取る問題である。「冒険開始!」という後ろの文章を読まずに、「冒険」という言葉からのイメージのみで、「飛び込んだり、もぐったり」することと読み誤ってしまった。

文章全体から出題の意図を理解して答えることが必要である。

【問2】 遊泳禁止区域に出る時、「ぼく」が「だれか見つけてくれればいいのに」と思った心情を答える問題である。登場人物の心情に共感して読める設問であると思われるが、誤答を見ると、設問の指示である「書きぬき」を意識してなかったようである。この時期の生徒は、条件に合致させて答えることが不慣れであることが推測される。

【問3】 遊泳禁止区域を過ぎてから、「ぼく」が不安になった状況を本文中の言葉を使って答える問題である。答えに当たる内容は、～線の直前にある。理由の一つ目のポイントは潮の流れの「速さ」である。したがって、「潮の流れに遡らう格好になるから」を書き抜いただけでは不十分である。また、理由の二つ目のポイントは「深さ」である。そこに気付いていながら、文末の表現を設問の指示に合わせて整えることができていない誤答が見られた。

一部の言葉から判断せず、適切な内容であるかをよく吟味して答えを導き出すこと、問に対応する適切な表現で答えを書くことを指導したい。

【問4】 遊泳禁止区域でおぼれた時の「ぼく」の気持ちを選択肢から答える問題である。誤答のEは、「申し訳ない」という言葉だけで判断したと思われる。

選択肢の文中にある一部の言葉ではなく、文全体の内容が適切か否かを読み取ることが大切である。

(2) 指導のポイント

○自分と共通する、あるいは、異なる登場人物のものの見方や考え方、行動などについて注目させる。

○場面の展開を踏まえて、情景や心情の理解に関わる具体的な表現をとらえさせる。

○読み取った内容を、問に正対した適切な表現で正確に書き表す意識をもたせる。

領域別正答率(%)	H19	H20
全国学力・学習状況調査	86.7(B)	64.3
さいたま市学習状況調査	76	52

大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無答率
2 読むこと 説明的文章	問1	「その原因と対策」とありますが、「対策」について述べている部分をさがし、はじめの五字を書きなさい。	新たにダム	水不足の時 これは、各 各家庭で使		23	5
	問2	「水道管にかける圧力を小さくした」とありますが、このことを何といいますか。本文から探して五字以内で書きぬきなさい。	給水制限	再生水 貯水率		52	19
	問3	□にあてはまる接続語を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 ア つまり イ だから ウ さらに エ しかし	エ（しかし）			84	1
	問4	この文章の内容を次のようにまとめました。空欄A、B、Cにあてはまる言葉を本文から探して書きぬきなさい。 降水量が世界平均の二倍もあるのに、水不足になる理由は、Aと、狭い国土に一億二〇〇〇万人もの人が住んでいることにある。 その水不足に備える現実的な対策として、「再生水」の活用、さらにBがあるが、何よりも、Cが大切である。	A 長い川がないこと B 雨水を利用する方法 C ムダな水の使い方はしない心がけ	平野が少なく山の多い国土 ダム建設 一人ひとりの協力		53 44 56	10 12 7

(単位：%)

読むこと【説明的文章】

(1) 結果の概要

① 資料文について

新聞記事からの出題である。日本は「水に恵まれた国」と言われているが、毎年、夏になると水不足に悩まされている。昨年の夏、四国地方を中心に起きた水不足問題を取り上げ、その原因と対策について考察している。一文が短く、具体例が詳しく述べられているので比較的読みやすい文章である。さらに、生徒たちもニュース等でよく見聞きする「水不足」問題なので、興味をもって読むことができたと思われる。

② 設問ごとの結果

【問1】 日本が水不足にならないための「対策」について述べられている部分を探す問題である。前半は、香川県の現状をレポートしたものであり、筆者の考えた対策ではない。問題文全体の内容を正確に読みとることが不十分であった。

【問2】 無答率が高かったことから、「給水制限」の「給水」という言葉の意味がわからず、とまどった生徒が多いと思われる。「給」という漢字は、「給食」などで馴染みがあるものの漢字が持つ意味まではとらえられていない。日頃から一文字一文字の漢字の意味や用法を意識した学習を積み重ねていくことで、語彙力の向上を図りたい。また、「貯水率」は、「水がダムいっぱいにとまっている状態に比べてどのくらいあるかを示す割合」という説明があるにもかかわらず、問われた～部のすぐ後に出てきて、「水」に関係する語句だからという理由で書きぬいたと思われる。

【問3】 前後の段落の内容を正しくとらえ、当てはまる接続詞を選ぶ問題である。前段落の「～貯水率は九十八パーセントなので、安心だと思いかもしれません。」では、「水は十分だ」と思われる内容だが、後段落は「人口が多いだけに、減るときはあつという間です。」とある。「水は決して十分ではない」ことが述べられていることから、前の内容に反するつながりをする逆接の接続語となる。無答・誤答共に大変少なく、段落前後の逆接の関係を表す接続語の理解は良好である。

【問4】 内容全体を読み取って、提示されている要約文中に「水不足になる理由」の一つ目(A)、「水不足に備える現実的な対策」の二つ目(B)と三つ目(C)を本文の書き抜きで埋めていく問題だが、正答率は50%前後にとどまった。(A)は、「理由の一つに」で始まる文に書かれている。その後で「また」で始まる文には理由の二つ目が出てくることから確認できる。(B)は、対策の一つ目「再生水の活用」から読み進めると、「また」で始まる文に二つ目の対策「雨水を利用する方法」が出てくる。(C)は、前にある「何よりも」から特出した内容が続くこと、文章全体における「筆者の主張」に関わる部分だということに気づき、最終に出てくる「普段からムダな水の使い方はしない心がけ」を読み取ってほしかった。「一人ひとりの協力」という誤答が目立ったが、「一人ひとりの協力」ではどんな「協力」かがはっきりせず、その後に続く具体的な内容まで読み進めることが必要である。部分的に読んで「書きぬき」に適しているという見方だけでなく、全体をとおしてしっかり読むことが大切である。

(2) 指導のポイント

○段落の初めの接続語や指示語などに注目をさせ、論理的な構成をとらえた読み方ができるようにする。

○様々な種類の文章を読む機会を設け、情報を整理しながら内容全体を理解できるようにする。

○キーワードやキーセンテンスなどを手がかりに要点をまとめたり、筆者の主張を読み取ったりできるようにする。

(2) 言語事項

領域別正答率(%)		H19	H20
全国学力・学習状況調査		82.8	76.3
さいたま市学習状況調査		70	85

大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無答率
[3] 言語事項	1	<u>ヒツヨウ</u> な物を買そろえた。	必要	必用		78	5
	2	みんなで <u>落ち葉</u> を <u>ヒロウ</u> 。	拾	捨		66	5
	3	ていねいに <u>セイショ</u> する。	消書	正書、聖書		60	9
	4	<u>ウチュウ</u> 飛行士にあこがれている。	宇宙	宇 宇		84	3
	5	違う意見の友達を <u>説得</u> する。	せっとく			97	1
	6	工場の機械を <u>操作</u> する。	そうさ	そうさく		89	1
	7	戦いで <u>敗</u> れた。	やぶ			96	1
	8	<u>土産</u> を楽しみに待っている。	みやげ	おみやげ		82	2
[4] 言語事項	問1	次の①～③の漢字の部首名を次から選び、記号で答えなさい。 ①担 ②刈 ③病	①ウ (てへん) ②イ (りっとう) ③エ (やまいだれ)			97 95 95	0 0 0
	問2	「糸」の画数は何画ですか。	六 (6も可)	五 八		92	1
	問3	「じっとして静かにすること」という意味を表す慣用句を選び、記号で答えなさい。 ア 息をのむ イ 息を殺す ウ 息がつまる	イ			88	1
	問4	例にならって、すべて現代仮名づかいで書く <u>いとうつくしうてゐたり</u>	いたり	すわっている いる		88	2
	問5	述語に対する主語を一文節で書きぬきなさい。 彼が見せてほしいと言ったので、わたしは収集の入っている軽い厚紙の箱を取りに行 <u>った</u> 。	わたしは	彼が取りに		57	6
	問6	「行書」で書かれている漢字を「楷書」でていねいに書きなさい。	情			96	2

言語事項

(1) 結果の概要

① 設問の意図

漢字の読み書きは、小学校で既習の配当漢字から7問、中1で学習した熟字訓1問について出題した。また、経年比較のために平成17年度の小学校(12月実施)と中学校(11月実施)の問題を1問ずつ出題した。語句に関しては、中学校1年生の授業の中で学習した事項の定着を確認することを目的として、歴史的仮名遣いの理解などを幅広く出題した。

② 設問ごとの結果

③について

- 1 [必要] 「要」に関する間違いが多かった。「用」という漢字を書いた生徒が多く、「要る」という漢字の意味を押さえていない生徒が多いように感じられる。
- 2 [拾う] 小学校3年で学習し、生徒たちも生活の中でごくあたり前に使っている漢字である。しかし、反対の意味を表す「捨てる」という漢字と誤解している生徒が多く、正答率も66%と低かった。このような例として、「借りる」「貸す」などの誤用の例がある。また、無答率も9%と他に比べて高かった。
- 3 [清書] 「正しく書く」という意味でとらえたせいか「正書」と間違えている生徒が多かった。また、「清」という字と同じ傍の「精」「情」「請」と間違っている答も見られた。文脈をとらず、「聖書」と勘違いした答も見られた。平成17年度の小学校5年生の調査(正・晴・清の選択)では、正答率は61%だった。
- 4 [宇宙] 「宇」の字を「宇」や「宇」と細かな間違いをする生徒が見られた。
- 5 [操作] 「そうさく」と読む誤答が多かった。なお、平成17年度の正答率は88%であり、ほとんど差異は見られなかった。
- 6 [土産] 「おみやげ」という音で耳にすることが多いせいか、そのまま書いた間違いが目立った。

④について

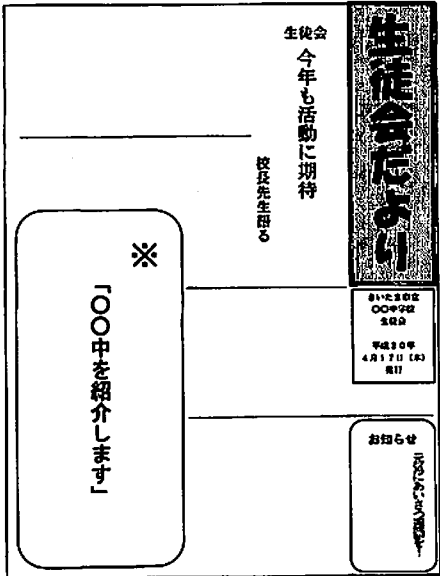
- 問1・問2 [部首名・画数] 部首名を選ぶ問題では、正答率も高く、部首の理解度は高い。画数については、書体の違いについて、教科書で学習したことが定着していることがうかがえる。
- 問3 [慣用句] 1年次の教科書教材『オツベルと象』の中にある「息を殺す」の意味を選ぶ正答率は88%だった。
- 問4 [歴史的仮名づかい] 竹取物語の冒頭部分で暗唱したことが正答率の高さにつながっていると思われるが、「すわっている」「いる」など口語訳を書いている誤答が目立った。
- 問5 [言葉のきまり] 文末「行った」の主語を答える問題であるが、正答率は57%と低かった。文頭「彼が」は、複文の主語となっており、誤りやすいところだが、「取りに」という誤答も多く、「だれが一どうする」という「主語・述語」の基本的な文型が理解できていないこともうかがえた。また、無答率も6%で、「文法」への苦手意識が依然として強いことが課題である。
- 問6 [楷書・行書] 行書で書かれた漢字を楷書にあらためて書く問題である。「例」がわかりやすく示してあり、正答率が96%と高くなった。

(2) 指導のポイント

- 辞書を用いた学習活動の場面を多く取り入れ、言葉の意味や用法を調べ、日常の言語活動と関連付けながら、言語に対する意識や感覚を高めていく。
- 文法は、授業の中で繰り返し、明確で綿密な指導を行うことはもちろんだが、「読むこと」や「書くこと」の指導の充実とともに総合的に指導することを心がける。
- 漢字は、一字一字の読み書きだけでなく、語彙として文脈に即して使用できるようにする。

(3) 書くこと

領域別正答率(%)		H19	H20
全国学力・学習状況調査		74.3	59.1
さいたま市学習状況調査		66	72

大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無答率
書くこと 条件作文	5	次の資料は、ある中学校の「生徒会だより」の原稿です。このたよりは全校生徒や先生方だけでなく、地域の方々や近くの学校にも配布されます。 四月に発行するたよりでは、新入生や地域の方々などに中学校の特色を紹介することになりました。 あなたが※のコラム「〇〇中を紹介します」を書く担当になったとして、「〇〇中学校」の特色（良いところや優れていることなど）を紹介する文章を次の注意に従って書きなさい。 【注意】 ①「〇〇中」とは、実際にあなたが通っている学校であっても、そうでなくてもかまいません。 ②解答用紙2の中にある原稿用紙には、題名、氏名は書かず、本文だけを書くこと。 ③原稿用紙の正しい使い方を守ること。 ④話し言葉や流行語は使わずに書くこと。 ⑤原稿用紙に十行以上で書くこと。 (十五行で書ききれなかった場合は、欄外に書いてもかまいません。)				72	7
		図19 〇〇中学生会だより 平成30年4月17日 					

(単位：%)

書くこと

(1) 結果の概要

① 資料について

ある中学校の「生徒会だより」で新入生や地域の方々などに中学校の特色を紹介する文章を書くという設定である。学校の良いところや優れていることを紹介する文章を自分の学校生活に照らし合わせて書くもので、中学2年生の生徒にとっては書きやすい課題であると思われる。

② 出題の意図

全校生徒や先生だけではなく、地域の方々や近くの学校にも配布する生徒会だよりに文章を書くので、相手や目的を意識して書くことが求められる。なお、文章語を正確に記述する力を把握するために、注意点として、話し言葉や流行語は使わずに書くことをあげている。

③ 結果の概要

昨年度の問題の正答率が66%、無答率が9%だったのに対し、今年度の課題は、身近な題材で自分の考えをまとめやすかったこともあり、正答率は上がり、無答率は下がった。

しかし、「〇〇中学校の特色（良いところや優れていることなど）を紹介する文章を書く」という課題に対して、学校の施設や設備などを羅列するだけの作文や、「ぼくは～（を紹介します。）」と一人称を主語にした、生徒会だよりにそぐわない書き方の作文も見られた。また、「話し言葉や流行語を使わないで書く」という注意にもかかわらず、「あいさつができてる」「すごい輝いている」「いっぱい」「とっても」「すっごく」「ちゃんと」「～なんで」等の表現がかなり見受けられ、「話し言葉」と「書き言葉」の違いが定着してないと言える。文章を書かせるときには、適切な表現の仕方について指導したい。

原稿用紙の使い方については、基本的な決まり事について理解できていないことが目立つ。

書き出しを1マス下げていない、読点を行頭に書く等である。また、一段落が一文のみの構成であったり、文のねじれ等の状況も見られ、まとまった文章を書き慣れていない傾向が見られる。

また、漢字の読み書きの問題では高い正答率が得られるものの、作文の文章中では、誤字・脱字の間違いが多い。適切な語句を用いて表現すること、正しい漢字で書き表せることなど、基礎的・基本的な事項が、実際の言語活動の中で活用できるように指導していくことが求められる。

(2) 指導のポイント

- 「何を」「どのように」書くのかということを明らかにし、情報を活用しながら、自分の考えを明確に表現する学習活動を継続して取り入れる。
- 自己評価・他者評価の場面を多く取り入れ、書いた文章を見直すことを習慣化して、すぐれた表現や効果的な構成などについて、よく吟味させる。
- 日常の言語活動を振り返り、言葉のきまりや特質に気付かせる学習活動の工夫をし、場面や目的に応じた言葉（話し言葉と書き言葉）の使い方を正しく理解させる。